

プライマリ・ケア医のための 性感染症 (STD) の診断と治療

宗田 聡 先生

広尾レディース 院長

平成30年12月10日 (月)

18 : 30 ~ 20 : 30

筑波大学総合研究棟D 公開講義室(1F)

最近、日本における梅毒の感染者数が非常に多くなってきてニュースなどでも取り上げられるようになってます。STDには様々な病気がありますが、日本において最も多いSTDはクラミジア感染症で、厚生労働省の定点報告では約2万5000人です。次いで、性器ヘルペスの約9300人、淋菌感染症の約8100人と続きますが、実際には、多くのSTDは自覚症状が少ないこともあって病院を受診していないケースが多数あると考えられます。STDの中には、クラミジアのように不妊の原因となるものもあつたり、梅毒のように先天性梅毒といって子供にも感染させてしまうものもあります。淋病（淋菌感染）に関しては、耐性菌の問題などで治療に苦慮するケースもでてきています。またエイズ（HIV感染）についても、国内の感染や治療状況はまだまだ多くの問題もあります。今回は、これら代表的なSTDの診断と治療についてお話したいと思います。今回の勉強会では、広尾レディース院長の宗田聡先生に「プライマリ・ケア医のための性感染症（STD）の診断と治療」の演題で、お話していただく予定です。事前申し込みの必要はございません。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医2単位と認定薬剤師1単位が取得できます。またフロンティア医科学専攻の医科学セミナー4（プライマリ・ケア）の一部となっています。